

▼文化庁主催シンポジウム



芸術資産を いかに未来に 継承発展 させるか

▼参加費
無料

▼会場
国立新美術館3階講堂

〔東京都港区六本木7-22-2〕

▼日時
2019年3月16日(土)

15時-18時〔受付開始14時半〕

コレクター文化
育成のための
法律・制度設計の
具体的提言

▶プログラム内容(敬称略)

15:00-15:20 | キーノートスピーチ

圀府寺 司

〔大阪大学大学院文学研究科 教授〕

15:30-17:00 | パネルディスカッション

池上 裕子

〔神戸大学大学院国際文化学研究科 准教授〕

岩井 希久子

〔絵画保存修復家 (IWAI ART 保存修復研究所)〕

鴻池 朋子

〔現代アーティスト〕

小松 隼也

〔弁護士(長島・大野・常松法律事務所)、コレクター〕

建畠 哲

〔埼玉県立近代美術館 館長〕

(司会) 圀府寺 司

17:00-18:00 | 参加者交流会

※コーヒー・ソフトドリンクをご用意しております

来場者アンケートに
ご協力お願いいたします。



<https://form.run/@0316bunka-q>

登壇者プロフィール（敬称略・五十音順）



▼池上裕子

いけがみ・ひろこ | 神戸大学国際文化学研究所准教授。イェール大学美術史学科でPh.D.取得。専門分野は第二次世界大戦後のアメリカ美術とグローバル・モダニズム。主著にThe Great Migrator: Robert Rauschenberg and the Global Rise of American Art (The MIT Press, 2010)、共著にInternational Pop (Walker Art Center, 2015)、『油彩への衝動』（中央公論美術出版、2015年）など。『越境と覇権:ロバート・ラウシェンバーグと戦後アメリカ美術の世界的台頭』（三元社、2015年）で第38回サントリー学芸賞受賞。日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ副代表。



▼岩井希久子

いらい・さきこ | 絵画保存修復家（コンサヴェーター）、(有)IWAI ART保存修復研究所 代表取締役。1980年に渡英し、ロンドンのナショナル・マリタイム・ミュージアムにて修復技術を学び1984年に帰国。フリーランスの保存修復家としてゴッホ、ピカソなどの修復を多く手がけ、香川県直島の地中美術館モネ作品の保存展示計画や、現代アートやディスプレイ画など多様な表現の修復にも挑む。また、1998年に絵画等の経年劣化を防ぐ画期的な保存方法「脱酸素密閉」（特許出願中）を発案開発し世界的に注目される。この他日本の技を生かした独自の修復技術などを開発、探求している。現在、ベトナム戦争の影響で放置されたままとなっていた、ベトナムの国民的画家、グエン・ファン・チャンの絹絵作品や、熊本地震で罹災した油彩画作品の修復を行なっている。IIC(国際保存修復学会)、文化財保存修復学会会員。2010年NHKプロフェッショナル仕事の流儀「母の覚悟で、ピカソに挑む」に出演、著書に2013年『モネ、ゴッホ、ピカソも治療した絵のお医者さん修復家・岩井 希久子の仕事』美術出版社、2014年『ソリストの思考術 絵画保存修復家・岩井希久子の生きる力』六耀社等がある。



▼関府寺司

こうでら・つかさ | 大阪大学文学研究科教授。西洋美術史・アート・メディア論。1957年生まれ。1981～88年、アムステルダム大学美術史研究所留学。文学博士 Doctor der Letteren 取得。エラスムス研究賞受賞。2004～05年、ワルシャワ・ユダヤ歴史博物館派遣研究員。主な著書に Vincent van Gogh, Christianity versus Nature, Amsterdam - Philadelphia, 1990。（日本語版『ファン・ゴッホ 自然と宗教の闘争』小学館、2009年）The Mythology of Vincent van Gogh, Tokyo-Amsterdam-Philadelphia (TV Asahi, John Benjamins) 1993。（日本語版『ファン・ゴッホ神話』テレビ朝日出版局編著、1992年）『ユダヤ人と近代美術』光文社新書 2016年。Van Gogh & Japan, Van Gogh Museum, 2018（共著。日本語版『ファン・ゴッホと日本 巡りゆく日本の夢』青幻舎、2017年）など。1986年、2002年、2005年、2017-18年（日蘭共同企画）、ファン・ゴッホ展企画。



▼鴻池朋子

こうのいけ・ともこ | 芸術とエネルギーの問い直しを試みている。1960年秋田県生まれ。人類学、民俗学、考古学などと共にプロジェクトを重ね、現代の神話をトータルインスタレーションで表現。2017年芸術選奨文部科学大臣賞受賞。主な個展：2009年「インタートラベラー」東京オペラシティアートギャラリー、2011年「獣の皮を被り草の編み物」ギャラリーヒュンダイ（韓国）、2013年「Earthshine」ウェンディ・ノリス（アメリカ）、2015年「根源的暴力」神奈川県民ホール、群馬県立近代美術館、新潟県立万代島美術館、2018年「Fur Story」リーズ美術大学（イギリス）、「ハンターギャザラー」秋田県立近代美術館 他。主なグループ展：2006年「The Scarecrow」アヴァロフ美術館（ギリシャ）、2008年「広州トリエンナーレ」（中国）、2010年「釜山ビエンナーレ」（韓国）、2016年「Nousもう」金沢21世紀美術館、「Temporal Turn」スペンサー美術館・自然史博物館（アメリカ）、2017年「奥能登国際芸術祭」、「Japan-Spirits of Nature」アクバラル美術館（スウェーデン）、2018年「Kalevala」ケラバ美術館（フィンランド）他。



▼小松隼也

こまつ・じゅんや | 弁護士／コレクター。2009年弁護士登録。2011年、東京写真学園プロカメラマンコース卒業。2014年、ニューヨークのロースクール、Fordham University School of Lawに留学し、Art LawやFashion Lawを学び、美術館やギャラリー、アーティストらとの交流を深める。帰国後は、現代美術商協会の法律顧問や文化庁の文化政策事業の事務局等を務めるとともに、コレクターとして写真作品を中心に70点ほどを収集中。



▼建畠哲

たてはた・あきら | 美術評論家、詩人。1947年京都に生まれる。早稲田大学文学部フランス文学科卒。国立国際美術館長、京都市立芸術大学学長などを経て、現在、多摩美術大学学長。埼玉県立近代美術館長、草間彌生美術館長を兼任。全国美術館会議会長。ベネチア・ビエンナーレ日本コミッショナー、横浜トリエンナーレ、あいちトリエンナーレ、東アジア文化都市—京都などの芸術監督を歴任。オーストラリア国家栄誉賞受賞。文化庁創設五十周年記念表彰。詩人としては歷程新鋭賞、高見順賞、萩原朔太郎賞を受賞。